

リヤアクスルの終減速装置の処理に関する技術確認書（2002年9月3日付）

VAZ-2107

リヤアクスルの終減速装置：
分解・修理不要でうなり音を解消

M-ストロイ閉鎖株式会社・契約に基づき事業所の機械設備保全責任者が処理を実施・M-ストロイ閉鎖株式会社技術部門責任者V.M.ヴァシリエフおよびアルクティク・アフト有限責任会社社長I.V.パヴロフが技術確認書を承認

ムルマンスク市（ロシア）・2002年9月3日付技術確認書・押印2か所・署名4名

製品

XADOゲル状リバイタリザント（摩擦面再生剤）
変速機・減速機用・処理2回、各回チューブ1本

処理対象

リヤアクスルの終減速装置
通常使用中の乗用車VAZ-2107

文書の種類

処理に関する技術確認書
2社の署名・押印付き

機械類

乗用車VAZ-2107、リヤアクスルの終減速装置

作業開始時の走行距離

138,652 km

評価項目

走行中の速度域別リヤアクスルのうなり音

装置の著しい摩耗のため、処理は2段階で実施した。各段階でXADO変速機・減速機用ゲル状リバイタリザントのチューブ1本を使用した。

主な結果

分解・修理を伴わない終減速装置のうなり音の解消

処理段階別のリヤアクスルのうなり音

段階	技術確認書記載の結果
処理前の状態	装置の著しい摩耗、 40～80 km/h でのリヤアクスルのうなり音
1回目の処理後	「 60～80 km/h でのリヤアクスルのうなり音が止んだ」
2回目の処理後	「 40～60 km/h でのリヤアクスルのうなり音が止んだ」
2回の処理の結果	当初うなり音が生じていた 40～80 km/h の速度域全体でうなり音を解消

評価は聴感によるものであり、各処理前後に同一の速度域で車両を走行させて行った。騒音レベルおよびかみ合いのすきまは測定していない。

技術確認書の結論

M-ストロイ閉鎖株式会社の技術確認書には次のとおり記載されている。「終減速装置の処理は、著しい摩耗のため2段階で行った...処理は走行距離計の表示値**138,652 km**の時点で行った」。各段階については、「1回目の処理は、処理手順に従い、XADO変速機・減速機用ゲルのチューブ1本で行った。結果：**60～80 km/h**でのリヤアクスルのうなり音が止んだ」、「2回目の処理は、XADOゲル...のチューブ1本で行った。結果：**40～60 km/h**でのリヤアクスルのうなり音が止んだ」とある。車両は**40～80 km/h**の速度域全体でうなり音が生じる状態で処理を受け、2回の処理によりこの速度域全体でうなり音が解消した。その際、リヤアクスルは分解しておらず、部品も交換していない。ゲルは所定の潤滑油に添加され、歯の寸法・形状の回復は稼働中の装置で進む。

XADO

© XADO。無断転載を禁じる。

本結果は、走行距離約139千kmの乗用車VAZ-2107のリヤアクスルの終減速装置に関するものである。他の部位や対象機の状態が異なる場合には、結果が異なることがある。技術確認書の原本は署名・押印を含めて全体を公開しており、ダウンロードできる。